

企業名： 王子ホールディングス

レポート名： 統合報告書 2024

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

非常に理解できた。統合報告書の冒頭には、「目指す姿とロードマップ」がある。そこでは社長のメッセージをはじめ、実際にこの企業がどのような未来を思い描いているのかについて、分かりやすく説明されていた。王子ホールディングスの目指している持続成長への取り組みは短期・中期・将来に分けて構想されているため、非常にわかりやすかった。前提として、森林機能の部分で経済価値化を目指しつつ、中長期で、環境配慮型パッケージングで収益向上を目指し、また木質バイオビジネスを次世代の中核ビジネスとして据えている。また継続して人的資本強化や DX 推進を目指すという負かりやすい目標が掲げられている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

非常に理解しやすい。価値をどのように想像するのか、いかにして競争優位性を生み出すのかについてロジックツリーに元図いて図で示されていることから非常にわかりやすかった。また各経営資本の強みと課題もまとめていることでより具体的な競争優位性を理解することができる。企業価値の増大を成長力・収益力・株主還元・安全財務体質・サステナビリティ経営に分類している。さらにそれぞれの中期的な経営課題、主な KPI、主な施策を掲げていることがわかる。また各経営資本の強みと課題に関しては、人的資本。知的資本・自然資本・製造資本・財務資本・社会関係資本に分けて詳細に示されている。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

理解できる。事業別価値創造戦略において、具体的な戦略と共に、これまでの売り上げと営業利益の比較を行い、2030 年度までの会社の計画をそれぞれのセグメントごとに具体的に提示している。このような点で持続性が高いと感じる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

非常に強く思いました。実際に統合報告書には人的資本の価値向上と活用による経営戦略の実現に向けて方針が示されている。リスクリング・グローバル人財育成・営業人財育成などが充実していることがわかる。また人財のエンゲージメントを高め、最大限の活躍を後押しするために、経営層と従業員が直接対話し、風通しの良い風土を作り上げている。これによってさらに自身の価値向上につながると感じた。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

王子ホールディングスの最もよかった点は非常にわかりやすい構成であることである。図をたくさん使うことによって見ただけでどのようなことが一目で理解できた。また伝えたいこともわかりやすいため、読み手にわかりやすい報告書であると感じた。

改善余地があるところとしては、より同業他社との比較を入れてもよいのではないかと感じた。競合優位性などは分かりやすいと評価したものの、他の同業他社との具体的な違いなどが一目でわかるようなものであるとより良いと感じた。